

平成 29 年度
横須賀美術館 評価報告書
(二次評価まとめ)

平成 30 年（2018 年）7 月
横須賀美術館運営評価委員会

委員による二次評価まとめ（平成29年度事業の評価）

I 美術を通じた交流を促進する		【集客・交流推進】		
① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。		〔広報〕		
達成目標	・年間観覧者数 100,000人以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	S	・平成28年度と比較すると、1万人の増加を見たことを評価したい。		
菊池委員	A	・10周年事業の影響をどのように評価・検証しているのか。		
柏木委員	A	・総数においてはS評価としてもよいと思われるが、個別の事業で未達があるためAとした。ここ数年の実績に鑑み、目標人数を再検討してもよい時期に来ていると思われる。		
草川委員	A	・企画展により大きく左右されると思うが、過去最高の観覧者数であり、高く評価される。 ・数値で評価できる目標は、段階を設けて評価しても良いのでは…		
丹治委員	S	・観覧者数の目標値において未達成の企画もあるが、全体として開館初年度を除く過去最高という点はたいへん評価できる。		
祓川委員	A			
本間委員	B	・単純に10万人を達成したからというのではなく、あくまでそれ以上を目指してほしい。		
実施目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。 ・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。 ・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。 ・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。 ・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。 	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	S	・増加要因が働きかけとの連動によるものとし、試みられた実施目標を評価したい。		
菊池委員	A	・県央部・県東部の割合増加をどのように捉えているか。		
柏木委員	A	・実施目標に設定した各項目に対する取り組みが、達成目標の実績数値に結びついていると思われる。		
草川委員	A	・各種イベントの実施や効果的な広報活動等いろいろな策を講じ、観覧者数確保に努めている。		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	B	<ul style="list-style-type: none"> ・資料をいただき読んでみると、時代の波に乗り遅れている。今時、新聞購読者が減っているのに新聞広告に頼りお金をかけるのは、ナンセンスだと思う。旅行会社に働きかけるといっても具体的な美術館側の提案資料も不明なので評価出来ない。 ・商業撮影もどの程度か相手先も不明なので件数と金額だけでは漠然としていて評価できない。イベントを開催するというのも人数制限があり、告知をすれば受け入れも出来ない状態を感じる。 		

②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

[市民協働]

達成目標			
	(前年度)	1次評価	2次評価
・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,000人 (事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)	A	S	S
小林委員長	A	・ボランティアの参加者人数の目標2000人を大きく上回っているということで、S評価になっている。しかし、その数字が昨年度の数字と比べてどうなのか。また、美術館が課題としている方向性との関連でのボランティアの強化が図られたのか否かという点、そうした視点も評価基準になることを付記する。	
菊池委員	S		
柏木委員	S	・ここ数年の実績に鑑み、目標人数を再検討してもよい時期にきていると思われる。	
草川委員	S	・目標値を大きくクリアしている。	
丹治委員	S	・ボランティア活動への市民の参加が増加し、定着している。来館者サービスの充実となっている。	
祓川委員	S		
本間委員	A	・参加者が重複している可能性もあるので、実人数はいったい何人か。	
実施目標			
・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。 ・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。	(前年度)	1次評価	2次評価
	A	A	S
小林委員長	A		
菊池委員	S	・達成目標に匹敵する定性的評価ができるのではないか。	
柏木委員	S	・ボランティアの自主性に配慮した細やかな対応が、達成目標の実績数値に結びついていると思われる。	
草川委員	A		
丹治委員	A	・小学生のための美術館鑑賞会が美術への興味や関心をもつきっかけとなることは、児童に美術を通して豊かな感性を育むと共に、美術館に足を運ぶきっかけとなっている。今後も充実した取り組みをお願いしたい。	
祓川委員	A		
本間委員	A	・小学校の授業で見学をし美術に対する心を育てているのに、中学高校に進学してからは続かないのはとても残念である。ボランティアの生の声を聞いていないので判断できない。ボランティアの年齢構成も不明。	

II 美術に対する理解と親しみを深める

【社会教育】

③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

〔展覧会・教育普及〕

達成目標	・企画展の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A	・児童生徒造形展は無料か。無料なら評価項目に観覧料が入っているのは如何か。		
柏木委員	A	・達成目標の実績数値においてはS評価としてもよい結果と思われるが、個別の事業で「解説・順路」「心的充足」の満足度において未達があるため、期待を込めてAとした。		
草川委員	A	・要素別満足度を見ると、「観覧料」「解説・順路」については低い数値ではあるが、改善したりで出来ることは限界と思われる中、「作品」や「心的充足」では高い評価を得てそれをカバーしていることは評価できる。		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A	・企画に寄ってばらつきはあるが、今後もアンケートをホームページで実施したりして努力してほしいと思う。		
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回(児童生徒造形作品展を含む)の企画展を開催する。 ・所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間4回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。 ・知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。 ・美術への興味や関心が深まる美術関連の資料(図書、カタログ等)を、図書室で収集・整理・保管・公開する。 ・資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。 ・主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・アンケートの回答率を上げるための工夫も必要かと思う。 ・伊藤久三郎展は、多数の優品を所蔵する館として、画業の検証を目的として開催する意義は高いと思う。青山義雄展とともに誘客の取り組みについて、是非、検証していただきたい。		
草川委員	A	・企画展は一次評価理由に記載されているように多岐にわたって開催され、いろいろな観覧者層に支持されている。更には各々の企画展でそれに関する企画イベントを実施するなど新たな試みを評価したい。		
丹治委員	A	・幅広い興味に対応するという視点からもバランスの良い計画がなされ、企画展と合わせた講演会やワークショップが充実している。		
祓川委員	A			
本間委員	A	図書室の蔵書リストも資料として見ていないので不明。美術書以外の書籍は、拝見したところ古い。新品でなくとも、新書籍はBOOK OFFで安く買う事ができるので予算がないのであれば工夫が必要だと思う。		

④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

[若年層への教育普及]

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数22,000人		
	(前年度)	1次評価	2次評価
	A	S	S
小林委員長	S	・横須賀美術館は美術館と学校教育との連携を課題の一つにしているので、中学生の観覧者数の増加は評価したい。	
菊池委員	S		
柏木委員	A	・達成目標の実績数値においてはS評価としてもよい結果と思われるが、多感な中学生の来館を促すための事業計画全体の工夫を期待してAとした。	
草川委員	S	・14歳以下の人口が減少傾向にある中で、ファミリーが訪れやすい時期に若年層向けの事業を実施しカバーした結果だと思う。更にはその層がこれからの当館を支える観覧者となり得るだろうと感じられる。	
丹治委員	S	・小学校美術鑑賞会や幼児児童など子ども向けの企画展開催など、学校との連携が定着している。	
祓川委員	S		
本間委員	S	・現在は達成できているが、少子化なので陰りが見えてくるはず。その時の対応策を準備し始めた方が良いと思う。	

実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。 ・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。 ・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。 ・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。 ・小学生美術鑑賞会を充実させるため学校との連携を強化する。 ・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。		
	(前年度)	1次評価	2次評価
	S	A	A
小林委員長	A		
菊池委員	S	・マンパワーに限りがある中で、アートカードなどを有効に活用しながら、先生方と連携し教育現場での美術教育の推進に十分寄与しているのではないかと。	
柏木委員	S	・実施目標に設定した各項目に対する真摯な取り組みが、達成目標の実績数値に結びついており、課題も把握できていると思う。	
草川委員	A		
丹治委員	A	・比較的、時間に余裕のある夏休みに美術や図工の教科書にある作家など、子どもや保護者が興味を持つ内容の企画展をお願いしたい。 ・児童生徒造形作品展の美術館開催は、子どもたちの豊かな心を育む美術館としてのメッセージ性が高い。	
祓川委員	A		
本間委員	A	・少子化の波が来ているので、横須賀市立の小学生以外の作品を応募する機会を与えてもよいのではないかと。私立の小学生の応募も増えれば、活性化につながると思う。	

⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

[収集管理]

達成目標	・環境調査の実施(年2回) ・美術品評価委員会の開催(年1回)	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A			
草川委員	A	・各目標回数は達成しているが、環境調査がどのような時期にどのように実施しなければならないのか私自身勉強不足で不明な部分があるが、単純に回数を重ねることは可能ではないかと思われる。多分、経費も掛かるので予算的な問題などとは思うが… ・どうすればS評価になり得るのか判断がつかない。		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A	・建物の塩害被害もあり、広範囲に大変だと思う。美術品評価委員会は参加した事がないのでわからない。		

実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。 ・適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。 ・計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。 ・所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。	(前年度)	1次評価	2次評価
		C	C	C
小林委員長	C			
菊池委員	C			
柏木委員	C	・「次年度への課題」に示されている美術品取得基金にかかる市議会の議論や行政の取り組みの概要が、資料に簡潔にまとめられることを望む。		
草川委員	C	・一次評価理由を確認しても評価判断がつかない。作品購入費の充当が途絶えている状況が解消されていないことからC評価となっているが、近い将来解消されることがあるのか。		
丹治委員	C	・美術品購入費のための手立てを図り、計画的な所蔵作品の充実に努めていただきたい。		
祓川委員	C			
本間委員	C	・収集方針の基準がわからない。予算が無いので、修復も保全も大変だと思う。		

Ⅲ訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

【運営・管理】

⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

[メンテナンス・来館者サービス]

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		S	A	S
小林委員長	A			
菊池委員	S	・前年度(S)水準を超えているのに、一次評価でA評価にした理由は？		
柏木委員	A	・達成目標の実績数値においてはS評価としてもよい結果と思われる。館内アメニティの満足度は、館のハード面の経年劣化という不可避の要因に影響されることもあり、90%以上という目標自体かなり高いものと思う。		
草川委員	S	・目標値の達成はかなりの高水準であり、前年同様S評価でも良いのではと思われる。		
丹治委員	S	・館内アメニティ、スタッフ対応ともに満足度の目標値を達成しており、努力がうかがえる。しかしこの高い水準を維持するには、継続した取り組みがマンネリ化することなく随時確認・更新されていくことが必要と思う。		
祓川委員	A			
本間委員	A	・利用者の評価は、対応によるものだと思う。授乳室はあるのか。若いお母さんは、とても助かると思う。		
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。 ・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。 ・運営事業者と協力して、付帯施設(レストランおよびミュージアムショップ)を来館者ニーズに応じて運営する。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・清掃作業の人員配置が十分でない理由は、予算上の課題か。		
草川委員	S	・施設の老朽化は仕方ないことであり、その状況下で当館は十分なメンテナンスその他がされていると思われる。また、来館者サービスの徹底もなされている。S評価と考える。		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A	・受託事業者に対して、定期的な打ち合わせチェックが随時必要だと思う。特に、ミュージアムショップは何でもある雑貨屋的な感じがする。		

⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

[バリアフリー]

達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ420人以上	(前年度)	1次評価	2次評価
		B	A	A
小林委員長	A	・ここでは、福祉関連事業への参加延べ数が評価基準になっているが、その対象者は誰かといった問題を整理する必要がある。近年福祉の対象は、障害有する人たちに限らず、市民の高齢化している現実、その意味での福祉対象者の概念の拡大化を踏まえての整理も必要になる。		
菊池委員	A			
柏木委員	A			
草川委員	A	・目標数値を達成している。		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	A	・福祉事業の関連は、参加者を増やそうとしてもスタッフが果たして対応できるか疑問が残る。		
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親んでもらう(環境づくりの)ための各種事業を行う。 ・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。 ・託児サービスを積極的に周知していく。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・「福祉ワークショップ」の実績値が低く映るが、「次年度への課題」に記された自己分析を強く意識して事業設計をする必要があると思う。		
草川委員	A	・広報活動の工夫や強化、企画内容の充実などが結果に結びついている。		
丹治委員	A	・障害のある人や関係する方々のリピート率が高まることを期待する。そのためにも、ワークショップや講演会など繰り返し開催されることを望む。		
祓川委員	A			
本間委員	A	・人的サポートには限りがあるので、保証金を払って館内貸し出しのイヤホンガイドの導入でも良いと思う。美術品の作品紹介が、照明が暗く読めない場合がある。		

⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。 〔経営的視点〕

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均値を目安とする。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	B	A
小林委員長	B			
菊池委員	A	・10周年という特別な年度であることと、来館者が増加すれば比例して増加もやむを得ないところもあるのでは。		
柏木委員	B	・達成目標については、数値の面ではBとなるが、数値が年度毎の事業ラインナップに左右されることから、直近3年間の平均値程度という目標設定が果たして妥当なのか検討が必要ではないか。		
草川委員	B	・目標値は直近3年間の平均値とされているが、観覧者数の増加その他外的要因にも関連することであり計れない部分もあると思う。 ・目標値ではBであるが、トータル的にA評価でもと考える。		
丹治委員	A	・スリム化が十分に図られてきているところでの使用量増加は経営上致し方ないのではないか。維持管理やサービスの不足にならないよう今後も継続していただきたい。		
祓川委員	B			
本間委員	B	・3年間の平均を出す意味は無意味。事実をしっかりと書き原因と結果を公表すべき。本当に削減したいなら、コピー機のリース交換改善で担当者ごとのコピー枚数管理をする位の覚悟が必要だと思う。雨水の再利用はしているのか。電球は長い目でみれば、LEDもしくはトイレなどは人感センサーの対応にし省エネルギーを。		

実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。	(前年度)	1次評価	2次評価
		A	A	A
小林委員長	A			
菊池委員	A			
柏木委員	A	・展覧会関連出張の効率的な計画は必要だが、交渉等の相手の都合に左右される他律的要因もあることを勘案する必要がある。		
草川委員	A	・職員の費用対効果を常に意識しての姿、経費削減の実績を評価する。		
丹治委員	A			
祓川委員	A			
本間委員	F	・どの程度取り組んでいるか、比べようが無いのでわからない。		